

平成 26 年 5 月 30 日

各 位

静岡県環境衛生科学研究所長

平成 26 年度静岡県環境衛生科学研究所業務研究発表会の開催について

時下、貴職におかれましては、ますます御清栄のこととお慶び申し上げます。

静岡県環境衛生科学研究所の業務につきまして、日頃から格別な御理解と御協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、当研究所では、調査研究及び試験検査業務の成果に関する平成 26 年度業務研究発表会を下記のとおり開催いたします。

つきましては、御多忙中とは存じますが、多数の皆様の出席について御配慮いただきますよう御案内申し上げます。

記

- 1 日 時 平成 26 年 6 月 13 日 (金) 13:00~16:45 受付 12:30~
- 2 場 所 静岡市産学交流センター (ペガサートB-nest)
6階プレゼンテーションルーム (静岡市葵区御幸町3番地の21)
- 3 内 容 別添「平成 26 年度業務研究発表会開催のお知らせ」のとおり

担 当 企画調整課

電 話 054-245-7655

平成26年度業務研究発表会開催のお知らせ

主催 静岡県環境衛生科学研究所

静岡県環境衛生科学研究所では、日頃の研究成果等を県民の皆様に発表するため、毎年6月の環境月間に業務研究発表会を開催しています。

本年度は、大気、水質、医薬品、食品、微生物など、身近な環境や生活上の課題についての研究発表と合わせ、JICA・シニアボランティアとしてパラオで活動された、当研究所OBの深澤 均氏による「大洋州の島国・パラオにおける下水道水質管理」と題した特別講演を行います。

日本と歴史的にも深い関わりのある太平洋に浮かぶ島での興味深い体験談が伺えますので、多数の御参加をお待ちしています。

1 開催日時 平成26年6月13日(金) 13:00～16:45 受付12:30～

2 場 所 静岡市産学交流センター(ペガサートB-nest)
6階プレゼンテーションルーム(静岡市葵区御幸町3番地の21)

3 プログラム [入場無料、定員108人]

《特別講演》

大洋州の島国・パラオにおける下水道水質管理 深澤 均 氏

—JICA・シニアボランティアの活動報告— (13:05～13:50)

1 水質から地下の水脈を探る (13:50～14:10)

2 静岡県における有害大気汚染物質の状況 (14:10～14:30)

3 簡易懸濁法に関する薬剤情報の構築 (14:30～14:50)

4 試買テストの結果について (14:50～15:10)

～ウコン健康食品、味噌のイソフラボン、柔軟剤の香り成分～

(休憩)

5 居住環境におけるホルムアルデヒド発生源のオンサイト (15:20～15:40)

スクリーニング法の開発

6 富士山地域におけるマイクロ水力発電の可能性について (15:40～16:00)

7 麻しん疑い症例における病原ウイルス検出状況 (16:00～16:20)

8 静岡県で分離された結核菌の遺伝子解析 (16:20～16:40)

4 申込方法

はがき、ファックス、電話又はEメールにて氏名、連絡先(事業所、所属部署、電話番号)を明記の上、お申し込みください。当日、直接会場へお越しいただいても結構です。

5 申込先及び問合せ先

〒420-8637 静岡市葵区北安東4-27-2 静岡県環境衛生科学研究所 企画調整課

電話: 054-245-7655

FAX: 054-245-7636

Email: kanki@pref.shizuoka.lg.jp

静岡県環境衛生科学研究所業務研究発表会の発表要旨

1 水質から地下の水脈を探る

当研究所では水質汚濁が確認された地下水の継続監視を行っていますが、その際、周辺に対照地点を設けて汚濁地点からの拡散の有無を確認しています。ところが、地下の水脈は複雑で、対照地点を単純に近いという理由で選んでしまうと異なる水脈の地下水を調べてしまうことがあり、汚濁拡散を監視できない可能性があります。そこで、地下水の溶存物質の濃度組成により同じ水脈であるかを推定する方法を検討したので報告します。

2 静岡県における有害大気汚染物質の状況

当研究所では大気汚染防止法に基づき、有害大気汚染物質による被害を未然に防止するため、有害大気汚染物質の環境測定を県内6地点で行っています。

今回、PRTR制度により公表されている化学物質排出量データを基に、県内6地点以外の地域について暴露・リスク評価大気拡散モデル(AIST-ADMER)を用い、トルエン等の各物質について、県内の大気環境濃度を推定したので報告します。

3 簡易懸濁法に関する薬剤情報の構築

経管栄養を行っている患者の薬剤投与には、薬剤を粉末化した後懸濁して経管投与する「粉碎法」が行われてきましたが、近年、粉末化せずに水(55℃)で薬剤を崩壊・懸濁して経管投与する、より簡便な「簡易懸濁法」が広く用いられています。静岡県立総合病院の処方せんにおいて粉碎が指示されていた7薬剤について、「粉碎法」から「簡易懸濁法」への変更に伴う主薬の投与量の変化を評価したので報告します。

4 試買テストの結果について ～ウコン健康食品、味噌のイソフラボン、柔軟剤の香り成分～

試買テストでは、話題になっている商品や消費者から相談や苦情が寄せられている商品を対象に、成分の含有量や品質、安全性等に関する様々なテストを行っています。

今回は、お酒を飲む人に…のCMでお馴染みの「ウコン健康食品」、日本人の食事に欠かすことのできない味噌の機能性成分である「イソフラボン」、香りに関する相談が急増している「柔軟剤の香り成分」の3つのテーマに関する調査結果から得た知見を紹介します。

5 居住環境におけるホルムアルデヒド発生源のオンサイトスクリーニング法の開発

シックハウス対策には、室内においてホルムアルデヒドなど化学物質の発生源を特定することが重要です。当研究所では、木材製品から放散されるホルムアルデヒド量を測定するために、発生源探索セルを開発していますが、捕集された試料は持ち帰って実験室で分析する必要があります。そこで本研究では、市販のホルムセンサーを使用し、現場で吸光度変化量を測定することでホルムアルデヒド発生源を特定する手法を検討したので報告します。

6 富士山地域におけるマイクロ水力発電の可能性について

富士山地域には多くの湧水があり、「非常時の電源」などとして有望なマイクロ水力発電の可能な地点が数多く存在すると考えられます。現在、マイクロ水力発電による地域エネルギー賦存量を推定するための研究を行っており、これまでに実施した、地理情報システム(GIS)による発電適地の絞り込みや現地踏査、小型発電システムによる発電試験、市町等の上下水道設備での発電設備の導入効果の推定結果などについて紹介します。

7 麻しん疑い症例における病原ウイルス検出状況

わが国では、平成27年度までに麻しんの排除を達成し、WHOによる麻しん(はしか)の排除の認定を受けることを目標に、様々な取り組みを行っています。

今年に入り全国的に麻疹患者の報告が増え、静岡県でも20例以上の報告があります。当研究所では臨床的に麻疹と疑われた患者の検体を可能な限り確保し、麻疹ウイルス等の検査を実施しているのでその病原ウイルスの検出状況について報告します。

8 静岡県で分離された結核菌の遺伝子解析

結核は、県内で毎年600人前後の発生が報告されている感染症です。結核菌は、菌株ごと遺伝子に様々な個性があるので、この違いを利用して菌を区別し、感染源や集団感染の範囲の特定に利用しています。当研究所では、患者から分離された結核菌の遺伝子解析をVNTR（反復配列多型分析）法により行っています。今回は、過去2年間に県内で分離された結核菌の遺伝子解析結果について報告します。